

内外教育

ラウンジ ポストコロナの学校教育

○：「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということわざの通りに、新型コロナウイルス禍の経験が、同ウイルスの感染症法上の分類変更とともに忘れ去られようとしている。経験をトラウマにすることは避けなければならないが、経験から学ぶことも必要である。新種のコロナの感染拡大に備えて、医療の備えと同時に個人の感染対策も継続したい。過密を避け、手洗いやせきエチケットを継続し、健康維持に努める。コロナ禍で培ったさまざまな方法は、教育の分野でも保持したい。

○：新型コロナウイルスのまん延で、休校、遠隔授業、学校行事の削減が当たり前になり、子どもたちはマスク、黙食などで級友との距離をとることが奨励され、引きこもり気味になる傾向も増した。その補填は必須だが、同時に、コロナ禍で身に付いた新しい心性や方法は財産だ。人との過剰な接触や、集団への同調などから解放されて、個人の主体的な行動や学びは増加した。集団同調行動、形式的行事、無意味な規則などは、それらが無くても困らないこと、また、デジタルで学びができることを、子どもたちはコロナ禍の中で経験した。

○：情報通信技術(ICT)の活用は、コロナ後の教育でも必須である。教育再生実行会

議の第十二次提言(2021年6月)では「対面指導を基本としつつ、児童生徒の発達段階や学ぶ内容に応じて遠隔・オンライン教育を適宜取り入れ、双方の良さを最大限に生かすことが重要」と述べている。東洋経済新報社の22年12月の調査で「GIGA端末が整備されて教育全般は効率化された」という教師の回答は約6割に及ぶ。

○：高等教育に関して、同提言は「面接授業と遠隔・オンライン教育との双方の良さを最大限に生かした教育の可能性を追求することが重要」「(遠隔のメリットとして)自分のペースで学修がしやすい」「授業の工夫・質の改善につながる」と述べている。

○：全国大学生協連の学生生活実態調査(22年10・11月実施)の結果を見ると、オンライン授業と対面授業の組み合わせで授業を受けている学生が多く(全体の54・8%)、大学生活の重点は「勉学や研究」という学生が一番多い(30・3%)。学生の1日の勉強時間は増加し(3年前より14分増)、学生生活充実度も上昇している(87・5%)。

○：生成人工知能(AI)「チャットGPT」の扱いが問題になっている。AIの回答は、当たり障りのない平均的な内容で、個人の自律性を損なう場合もあり、出典や独自性を求められる学生の学びには不十分ではある。半面、アイデアや論旨の生成機能もあり、学生の主体的な学びに利用したい。

教師のこんなことしたい!を実現できる

ICT “超かんたん” スキル

和田 誠
【執筆者代表】

■理想の授業をICTで実現しましょう!

- 授業の導入で子どもたちを集中させたい
- クラス全員に意見を出して欲しい
- 誰もが役割を果たすグループ学習を実現したい
- 子どもの質問にはすべて答えたい

こんな人に
おすすめ
です!

「分かりません!」が
なくなる!

授業が
盛り上がる!

集中力が
高まる!

ICTの初心者の先生
授業を盛り上げたい先生
グループワークや話し合い活動
などに力を入れたい先生

職員室の先生たちが
なかなかICTに踏み出せず、
悩んでいる管理職



●A5判・144頁●定価1980円!

時事通信社 時事通信出版局 営業企画部 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

TEL 03-5565-2155
<https://bookpub.jiji.com/>